

# 学生を対象とした環境問題学習

## Learning about environmental issues for students

瀬川 力暉  
指導教員 西野隆司

サレジオ高専 デザイン学科 価値創造研究室

キーワード: 環境問題 地球温暖化 SDGs

### 1. 研究目的

学生を中心に環境問題を学習してもらうことが目的である。環境問題については SDGs（持続可能な開発目標）における 15 項目のうち 13「気候変動に具体的な対策を」、14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさを守ろう」などの目標と関連付けたものを取り扱う。SDGs と関連付けることで、持続可能な社会について考えるための一歩としてもらう。

### 2. 研究背景

昨今、環境問題を危惧する記事が多くみられるようになった。さらに近年関心を集めており、環境問題を改善していく中で重要な役割を担う SDGs の知名度は低く、それらを学習できるものが必要と考えた。

### 3. 研究意義

内閣府が平成 28 年に行った世論調査「地球温暖化に関する世論調査」の「地球環境問題に関する関心」によると、地球温暖化などの環境問題に関心がある人の割合は全体で 87 パーセントとかなり高い結果が出ている。年代別で見ると若い世代である 18～29 歳は全体と比較して 13 パーセントほど低い。また、「あまり関心がない」、「全く関心がない」を合算した割合は全体の倍以上である。この結果

から学生を含む若い世代は環境問題に対する関心が低いことがわかった。本研究の意義はその世代の人たちが環境問題に関心を持ってもらい、さらに学習してもらうことにある。

### 4. 調査内容

まず最初に環境問題として最初に挙げられる地球温暖化について調査した。地球温暖化により、2081 年以降の気温は 2.6～4.8℃上昇するといわれており温暖化対策をとったとしても 0.3～1.7℃の上昇は避けられないとされている。それに付随して、平均海面水位の上昇も想定されており、最大 82 cm の上昇が予測されている。

### 5. 研究方法

環境問題の学習を取り扱ったものは多く存在するが、本研究では動画媒体（ビデオクリップ）にて研究アプローチを行う。動画媒体の利用率は 10 代が最も高い（ACR/ex データ 2018 より）とされており、本研究のターゲットユーザーである学生世代に親しみやすく、関心がある媒体である。

### 6. 研究アプローチについて

動画で取り扱うテーマにはデータや数字が多く含まれるため、若年層はイメージしづらく、退屈してしまう可能性が考えられる。そのため、視覚的に

情報を伝えることができるインフォグラフィックを用いる。またインフォグラフィックは動画媒体との相性も良いとされ、より関心をもてるビデオクリップの制作が期待できる。インフォグラフィックスにアニメーションを使うことで明快で印象に残るモーショングラフィックを制作する。

## 7. 今後の展開

今後は3～4分程度の教材用ビデオクリップ作成を目指している。またそれらの内容を電車広告で放映することを想定した15秒程度のショートバージョンの製作を予定している。

[現在制作中のインフォグラフィックスのキャプチャ画像]



## 8. 参考文献

内閣府：地球温暖化対策に関する世論調査

<https://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-ondanka/index.html>

内閣府：環境問題に関する世論調査

<https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-kankyou/index.html>

環境省：意識調査

<https://www.env.go.jp/earth/ishiki/index.html>

リビング暮らしHOW研究所

「環境問題についてのアンケート」

[https://www.kurashihow.co.jp/wp-content/uploads/2019/09/201908\\_kankyo-1.pdf](https://www.kurashihow.co.jp/wp-content/uploads/2019/09/201908_kankyo-1.pdf)

WWF：地球温暖化とは？温暖化の仕組みを開発

<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/40.html>

優しい環境問題読本：地球の環境についてまず知ってほしいこと/西野順也著 東京図書出版

新しい環境科学；環境問題の基礎知識をマスターする/鈴木孝弘著 改定2版 駿河台出版